

2021年度 研究ステップアップセミナー

『大学院の研究作法 ～進学で得られたもの～』

公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部
学術委員会

「博士の取り方・活かし方」

大阪大学大学院医学系研究科 齋藤 茂芳

多くの大学のホームページ上で博士課程募集要綱を見ることができ、最低何年在学することが必要で、修了の必要単位数、論文等の修了要件や学位取得要件を知ることができます。保健学で博士を取得する場合は3年間、医学系研究科で医学博士を取得する場合は4年間が基本で、大学によっては短縮修了も可能です。博士号を取りたい、取ろうとするタイミングは人それぞれだとは思いますが、最も重要だと思うことがあります。それは博士号を取って、それを「どのように活かすか」を明確にしておくことです。単に自己研鑽のため、修士課程の延長という漠然とした進学では、博士号を取るモチベーションを保つことは難しいと思います。計画的に博士号を取り、その博士号をしっかり活かすというモチベーションが何より大切です。

本講演では、複数のロールモデルを提示し、さらに現役の技師長や部門管理者の博士号に関する意見を紹介し、より具体的に博士号の取り方・活かし方について考える機会にしたいと思います。

「博士後期課程での研究生活～大学の先端技術を活用した臨床研究～」

近畿大学奈良病院 三阪 知史

医療の高度化に伴い、われわれ医療従事者の専門の細分化や高学歴化が進んでいる。学位取得のためには、専門分野における十分な知識を持ち、主体的に学ぶ姿勢が求められる。特に博士後期課程では、ほとんどの大学院において、学位審査のため在学中に査読制度のある学術雑誌に原著論文（英文）が受理されていなければならない。つまり自身の研究成果を英文でまとめ上げる能力が必要とされる。

本講演では、大阪大学大学院に社会人として在籍した経験を元に、特に博士後期課程に焦点を当てて、入学から学位取得までの道のりを解説する。また大学院進学を目指す多くの方々が抱くと思われる疑問点や、入学後に苦勞する点についても、自らの体験談とともに解説する。大学院に進学すると、研究室に備わっている先端技術を利用して研究することも可能である。社会人として進学するからこそできる、大学と臨床を横断した研究手法についても併せて解説する。

「社会に貢献できる研究を目指して～医療人が防災学を学ぶ意義～」

兵庫県災害医療センター 中田 正明

われわれ診療放射線技師は、主に放射線を扱い画像を通じて診断や治療に関わり貢献する役割がある。しかし、長年医療に携わっていく中で、様々な出来事があり多くの人と出会い、医療人として違った役割も見えてくることもある。

私は阪神淡路大震災で被災者となったが、この震災を教訓に設置された医療機関に縁があり入職した。更にこの震災を教訓に厚生労働省が災害派遣医療チーム（DMAT）の養成を開始し、この事業にも携わることになり、診療放射線業務を遂行しつつ、災害医療従事者としての業務もおこなっている。

そして、2011年に発生した東日本大震災において被災地での活動を経験し、今後取り組むべき多くのことに気がついた。その中のひとつが、災害医療の研究である。大きな災害の経験を無駄にしないために今後はしっかりとした根拠に基づいた活動が必要であると感じた。しかし、災害医療に関する研究は少なく、また災害医療の研究は、医療の側面だけでは本質が捉えられないと思い、社会における防災の仕組みや研究手法を学ぶ必要があった。

今回、このような異色の研究に進路を進めた点についてお伝えし、皆様が医療人として今後の何かのきっかけになればと考える。

「技師と大学院の両立～やる気はあるのに論文が進まない皆さんへ～」

神戸大学医学部附属病院 谷 和紀子

現在私は、診療放射線技師として働きながら金沢大学大学院博士後期課程に在籍している。前期課程（修士）からの在籍期間を含めると4年目である。私が大学院にいくきっかけは、「英語論文を書きたいから」。締め切りがない論文を一人で書ききるには、能力と根性が足りないと感じたからだ。

本講演では、金沢大学のレポートの様子、臨床業務への向き合い方、研究室で学んだこと、関連する費用等リアルな大学院生活をお伝えしたいと考えている。この講演が大学院への進学を考えている方々の参考になれば幸いである。

「大学院を卒業して得られたもの」

近畿大学病院 松本 賢治

皆さんは、自分自身のキャリアパスを考えて仕事に従事していますか？診療放射線技師の国家試験をパスした後、就職してどのような放射線技師になりたいかを一度は考えたはずですが。その時想像した未来と今の現実、一致しているでしょうか？

私は、就職してから最初に疑問に思ったことがあるのですが、それは、先輩技師に半ば強引に入会させられ参加した技術学会で、諸兄が技師教育や勉強に対してなぜそこまで一生懸命できるのかということでした。1年目の人間（私）には、そこに多大な労力をかける意味が理解できませんでした。その理由は明白で、技師会の綱領に記されているような医療人としての自覚（目指すべきもの）が頭の中になかったからです。そんな私が、なぜ大学院卒業できたのか、どのようなものが得られたかをお話しさせていただき、若い方々のキャリアアップの参考に多少でもなればと思います。